

続

GIGAスクール

はじめて日記

小中学校の
授業実践から実践を支える
体制づくりまで

堀田龍也・佐藤和紀
三井一希・渡邊光浩

[監修]

〈日記を書いた先生〉

棚橋俊介・西久保真弥
浅井公太・稲木健太郎
松坂真吾・山崎寛山・本田智弘

good!

「はじめての次」と「次のはじめて」〈堀田龍也〉	3
-------------------------	---

第1章 できるようになった授業 〈棚橋俊介〉

6/14(月)	見通しをもつ授業 課題の設定 1 ストーリー性をもたせた課題設定	12
7/5(月)	見通しをもつ授業 課題の設定 2 Google フォームと AI テキストマイニングで焦点化	14
6/22(火)	調べる活動 情報の収集 1 共同編集機能で効率化	16
9/9(月)	調べる活動 情報の収集 2 Google Jamboard の付箋機能で情報収集	18
6/14(月)	集めた情報を整理する活動 1 ベン図を使った情報整理	20
7/8(木)	集めた情報を整理する活動 2 付箋を使って文章構成を考える	22
6/17(木)	整理した情報を分析する活動 1 Google Jamboard を使った分析	24
7/7(水)	整理した情報を分析する活動 2 共同編集で考察を出し合う	26
6/4(金)	学習活動をまとめる AI を使って学習をまとめる	28
6/15(火)	発表する活動 話すことへの必要感をもたせる	30
6/22(火)	ふり返りの活動 Google スプレッドシートを活用したふり返り	32
9/8(水)	交流したり・評価したりし合う活動 1 Google スプレッドシートを活用した評価活動	34
9/14(火)	交流したり・評価したりし合う活動 2 クラウド機能を活用した交流	36

◎その後の西久保学級 いよいよ新年度！	38
◆研究者の視点① 授業づくりの留意点〈三井一希〉	40
◆若手のドキドキ 子どもたちと共に悩み、共に学ぶ〈静岡県函南町立東小学校・教諭 杉山 葵〉	42

第2章 持ち帰り—空間的にも時間的にも広がる可能性 〈浅井公太〉

8/30(月)	オリエンテーション (ルール, 心得, 留意点, 持ち帰り方)	
	家庭でのルールと持ち帰って何をするのかを具体的に	44
8/31(火)	保護者説明	
	保護者も Chromebook を経験する	46
9/1(水)	家庭の Wi-Fi 環境調査と設定指導	
	家庭での「わからない」を最小限に	48
9/1(水)	持ち帰り練習	
	家庭 Wi-Fi に接続できたら「しりとり」コメント	50
9/9(木)	持ち帰りの実際 1	
	大きな可能性が広がっていく	52
9/13(月)	家庭学習をふり返る	
	Chromebook に親しむための家庭学習	54
9/17(金)	持ち帰りの実際 2	
	持ち帰りをして困ったところ	56
9/17(金)	保護者の声	
	保護者は Chromebook の持ち帰りに好意的だが…	58
◎その後の西久保学級	Chromebook を持ち帰る	60
◆研究者の視点②	情報端末の持ち帰りに向けた保護者理解〈佐藤和紀〉	62
◆同僚のまなざし	Chromebook が景色を変えた〈宮崎県都城市立南小学校・教諭 原 圭史〉	64

第3章 いつもの学びがつながるオンライン授業 〈稲木健太郎〉

7/12(月)	普通の授業	
	対面で、クラウドで、協働する普通の授業	66
8/30(月)	オンライン授業の練習 (Google Meet 体験)	
	友だちとつながる活動・学習につながる活動	68

9/1(水)	オンライン授業 1 (Google Classroom 中心) 学習の見通しや成果を「見える」ように	70
9/2(木)	他手段とのバランス調整 ツールや時間のバランスを考える	72
9/3(金)	資料配布・課題提出 Google Classroom と Google フォームで配布 & 提出	74
9/13(月)	オンライン授業 2 (Google Workspace for Education 中心) 1人で学ぶ, クラスで学ぶ	76
9/13(月)	オンラインのコツ・マナー 子どもたちと見つけるオンラインのコツ・マナー	78
9/14(火)	対面に近いオンライン授業 友だちと学び合う	80
◎	その後の西久保学級 オンライン授業に向けて	82
◆	研究者の視点③ オンライン学習の留意点〈三井一希〉	84
◆	校長の見守り コロナ禍でのオンライン授業を通して見えたもの 〈栃木県壬生町立睦小学校・校長 安武裕一〉	86

第4章 中学校実践—まずはやれそうなところから 〈松坂真吾・山崎寛山・本田智弘〉

7月上旬	学習課程に位置づける 汎用性のある活用を意識して, 日常的な活動へ	88
2020年 9月～	中学生の Chromebook 活用の心得 大事にしたい 3 つの「S」	90
2021年度末 ～9/2(木)	校内組織づくりと研修づくり みんなで「便利」「楽」「質の向上」	92
毎日	協働的な学びを目指して 「そんな考えあったんだ!」みんなで学ぶ日々	94
毎日	授業での日常的な活用 毎日の活用はふり返りの入力から始めてみよう	96
毎日	学校生活での日常的な活用 共有の仕方にも変化が	98
毎日	部活動や委員会での Google Workspace for Education 活用 授業外での活用(生徒も自主的に活用をスタート)	100

毎日	Google フォームを活用した検温・健康観察 健康観察・出欠連絡の劇的な効率化	102
毎日	Google フォームを活用した小テスト・ふり返り・CBT 「ドリル式」「記述式」の小テストを使い分ける	104
5/6(木) ~9/6(月)	中学生の持ち帰り、オンライン授業への準備 端末の持ち帰り、オンライン授業への道のり	106
◆研究者の視点④	中学校での実践ポイント 〈信州大学教育学部・教授 村松浩幸〉	108
◆文部科学省から	よりよい活用に向けての視点 〈文部科学省初等中等教育局教育課程課・GIGA StuDX 推進チーム専門職 堀田雄大〉	110

第5章 学校の体制づくり—みんなで考え、つくっていく 〈浅井公太・稲木健太郎〉

4/12(月)	カリキュラム・マネジメント 職員全体でアップデートをしていく	112
8/4(水)	校内研修 「体験」と「情報共有」	114
8/31(火)	健康への配慮 姿勢と使用時間を改めて確認	116
9/3(金)	保護者との連携 家庭ルールを決めて、アップデートしてもらう	118
毎日	急な措置への対応 対応の可視化と情報共有	120
毎日	学校の体制・組織づくり 「誰かが」から「誰もが」へ	122
◎その後の西久保学級	南小での校内連携	124
◆研究者の視点⑤	活用は全員で、それぞれのペースで 〈渡邊光浩〉	126
◆教育委員会から	GIGA スクール構想は漢方薬のように 〈大分県玖珠町教育委員会・参事 衛藤公彦〉	128
付録	◎授業・持ち帰り・オンラインの内容&特徴一覧	130
	◎素材一覧(Webサイト)	132
	◎「はじめて日記」をつけてみよう	136

1人1台の情報端末を活用し続けていくことで、 子どもたちはどのように成長していくか 〈佐藤和紀〉	138
---	-----

※本書は、1人1台の環境下で実践を続けた先生方の実際の「日記」をもとに構成しています。章・テーマにより日付の順序が前後している場合もあります。

6/ (火)
22

第1章 できるようになった授業

調べる活動
情報の収集 1

共同編集機能で効率化

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	
1	小学校区										学区外							
2		A店	B店	C店	D店	E店	F店	F店	その他	G店	H店	I店	その他					
3	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0					
4	2	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1					
5	3	1	1										1					
6	4	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3					
7	5	1																
8	6	2	1	0	0	1	0			1								
9	7	1												2				
10	8	1												1				
11	9											1						
12	10	1	1					1	1				1	3				
13	11		2	1	2									2				
14	12																	
15	13							2					1	1				
16	14	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	3					
17	15			1								2						

データの集計の場面で、Google スプレッドシートの共同編集機能を活用した。各個人で調べた結果を入力することができるため、活動に費やす時間が短縮され、データについて話し合う時間を十分に取ることができた。

スプレッドシート×共同編集で効率化

社会科の「買い物調べ」で、子どもたちが調べてきたデータを集計するために Google スプレッドシートの共同編集機能を活用した。スプレッドシートで共同編集を行うと、子どもたちは同時に書き込みを行うことができる。教師が出席番号や入力項目を設定しておくことで、子どもたちは指定した欄に情報を打ち込むことができた。

端末導入前は 1 人 1 人にワークシートを配布し、1 時間（授業時間 45 分）かけて集計したり、放課後に教師が集計を行ったりしていた作業が、10 分程度で終了し、活動を効率的に進めることができるようになった。



子どもたちは買い物調べの記録を見ながら一斉に入力を行った

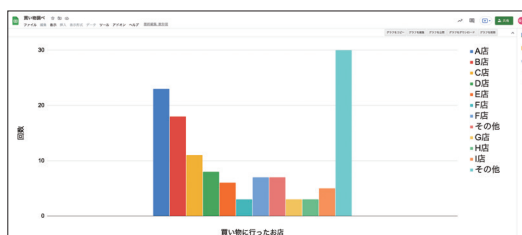
遊びの中で練習を

このような共同編集機能は非常に便利な機能だが、いきなり簡単にはできない。子どもたちにクラウドの概念が定着していないからだ。本学級では、1 人 1 人順番に単語を打ち込むしりとり遊びを日頃から行ったことで、子どもたちは他者意識をもって共同編集できるようになった。

表計算×グラフ化機能を使った分析

学級の買い物の傾向を分析するために、スプレッドシートの表計算機能とグラフ化機能を活用した。

具体的には、スーパーやコンビニ、ドラッグストアなどの各店舗で何回買い物が行われたのか計算し、算出された数値を使って棒グラフを作成した。



スプレッドシートでは AI が適切な縦軸や横軸などを設定してくれるためグラフ編集が容易にできる

子どもたちは、このグラフを見て「A 店での買い物が一番多いのには、どんな理由があるのだろう」「学区外にも買い物しに行っている家が多いのはなぜだろう」など、分析したことから新たな課題を見つけていた。



みんなで同時に書き込み効率的に情報を収集する

これまでは黒板に模造紙を貼り、表に書き込みをしていたような活動が、クラウドになると、このような実践になる。収集したデータを 1 人ずつファイルを作り、後で結合するとたくさんの時間がかかる。しかし、この実践のように、みんなで同時に入力すれば、すぐに作業が終わる。このような活用に取り組むことで「クラウドを活用すれば、効率的に作業が進むこと」を体験的に実感していくことができるようになる。（佐藤和紀）

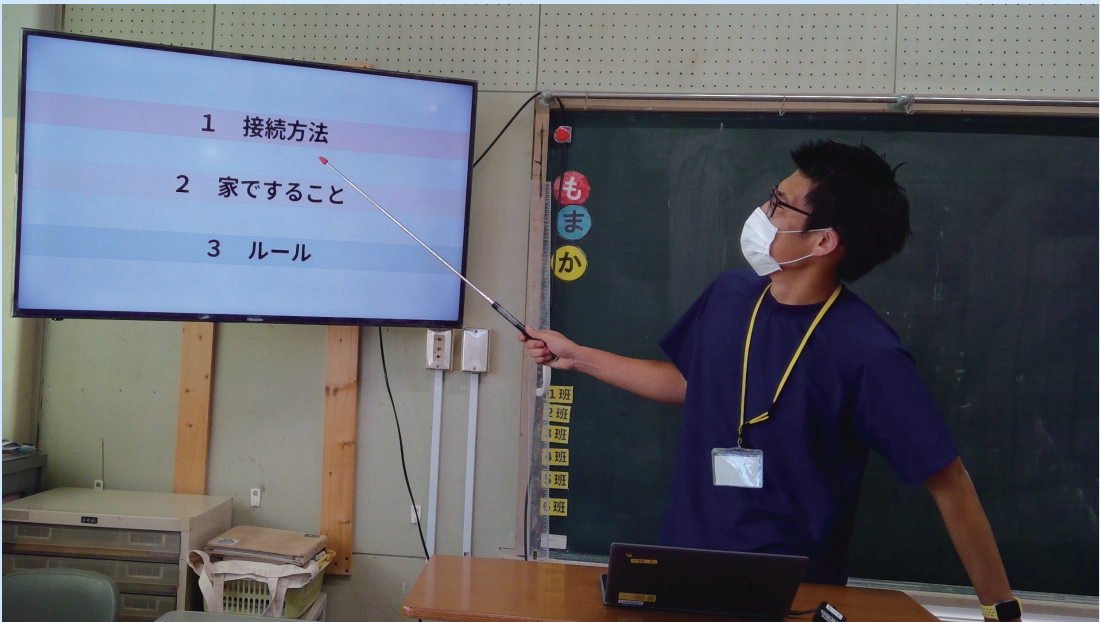
8/ (月)
30

第2章 持ち帰り—空間的にも時間的にも広がる可能性

オリエンテーション

(ルール, 心得, 留意点, 持ち帰り方)

家庭でのルールと持ち帰って何をするのかを具体的に

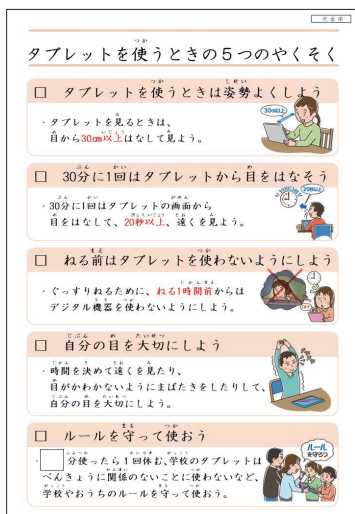


児童にとって学校の Chromebook を持ち帰ることは初めての経験である。嬉しい気持ちと同じくらい不安な気持ちがあった。そこで、安心させるために、Chromebook を持ち帰って何をするのかを具体的に説明した。

伝えたことは2つ

夏休み明けに Chromebook の持ち帰りを実施することになった。そのため、夏休み明け初日、すぐに持ち帰りのオリエンテーションを行った。児童は、学校で使っていた愛着のある Chromebook を持ち帰れることを非常に喜んでくれた。ただ、家庭でどんなことをするのか想像できていなかった。

まず、オリエンテーションでは、2つのことを伝えた。1つ目は家庭でのルールである。文部科学省の「タブレットを使うときの5つのやくそく（児童用）」を児童に配布し指導した。



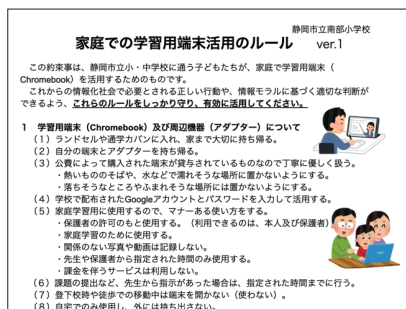
「タブレットを使うときの5つのやくそく（児童用）」文部科学省作成

その後、自治体から配布された「家庭での学習用端末活用のルール」を児童に配布し指導し

た。自治体のルールでは、「家庭学習用に使用するので、マナーある使い方をする。」「保護者の許可のもと使用する。」「家庭学習のために使用する。」「関係のない写真や動画は記録しない。」など丁寧に記載されていた。

最後に、私から児童に「家庭でも自分で考えて、自分で制限できる力をつけましょう」と伝えた。私の学級では、休み時間にも Chromebook の使用制限をしていない。その分、「授業で多く活用した時には、目を休ませるために運動場で遊ぶ」など、自分で考えて行動できるように声かけをしている。家庭では、先生も友だちもいないので、「自制する力」をより育成できるよいチャンスだと思った。

2つ目は、「家庭ですること」を具体的に伝えた。Google Classroom による教師からの連絡等を確認すること、家庭学習の実施時間を Google スプレッドシートに記入したり、日記を書いたりすること等、実際に使うスプレッドシートなどを見せながら具体的に説明した。具体的に説明したことで、家庭で何をするのかわからなかった児童も見通しをもつことができ、安心してた。



「家庭での学習用端末活用のルール」静岡県静岡市



自己管理できる子どもたちに

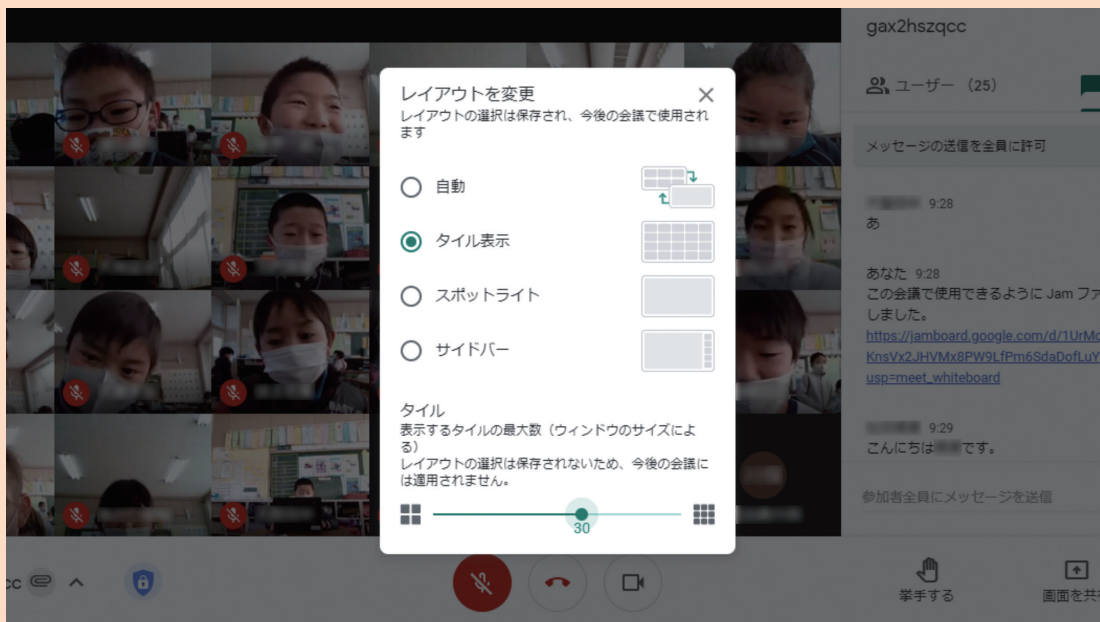
最初に「どんなルールを守るべきか」「家庭で何をするのか」を具体的に示すことで、子どもたちは持ち帰りで何をすべきで、何をしてはいけないのか、イメージを持つことができる。持ち帰りに慣れてきたら、「ほかに気をつけることはないのか」「家庭でどんなことができそうか」など、子どもたちにルールや取り組む内容を考えさせるとよいだろう。1人1台情報端末環境では、自己管理できる力をつけてほしい。(渡邊光浩)

8/ (月)
30

第3章 いつもの学びがつながるオンライン授業

オンライン授業の練習 (Google Meet 体験)

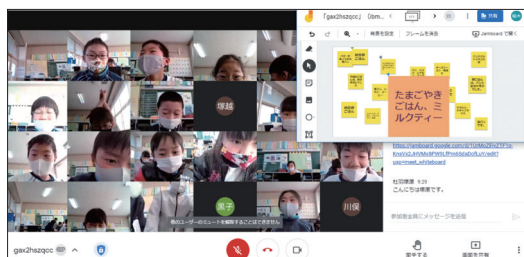
友だちとつながる活動・ 学習につながる活動



オンライン授業を行う前に、まずはオンラインでつながることに慣れる必要がある。無理なく楽しめる活動を通して、子どもたちも先生もつながる喜びを味わうことができ、操作にも慣れていった。

オンライン授業への備え

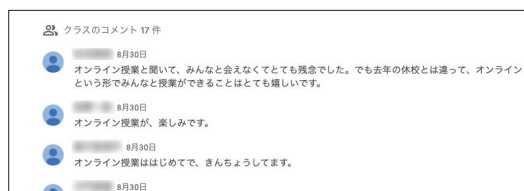
オンライン授業の準備として、普段から Google Meet などの Web 会議システムでオンライン朝の会を実施していた（前作第 8 週参照）。教室と一緒に練習することで、教師が操作方法を教えたり、トラブルのフォローをしたりすることができた。こうした備えを日常的に行うことで、教師も子どもたちもオンラインでつながることに慣れていった。



教室での Google Meet 練習

臨時休校のため実際にオンライン授業をすることになり、家庭と学校をつなぐ接続確認を行った。各家庭の通信環境などに配慮しながら、まずはつながることを目的に行った。接続確認では

- ①話ができるだけの通信速度か
 - ②音声と映像のやりとりができるか
- の 2 点を確認した。子どもたちは少し不安に



接続確認の後の子どもたちの声

思いつつも、オンライン授業が楽しみになったようだった。

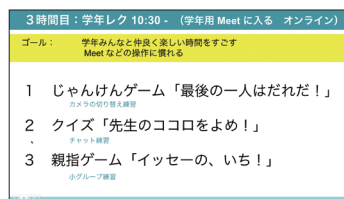
オンライン授業の練習

オンライン授業初日は、学習中心の授業ではなく、Google Meet に慣れるための活動を中心に行った。

朝の会では、健康観察にプラス一言のコメントを加える活動をした。初日は「オンライン授業をすると聞いた時の第一声は？」というテーマで盛り上がった。マイクのオン・オフの切り替えの練習にもなるし、友だちの一言を聞いて笑ったり驚いたりしていて、よいコミュニケーションの機会になった。

学級・学年でのレクリエーション（レク）も企画した。レクには、これからオンライン授業を受けるときにスムーズにできて欲しいスキルを身につけさせるねらいもあった。例えば、授業中の発表や質問をチャット機能で行うことを想定し、先生が出すクイズにチャット機能で答えるレクをした。子どもたちは楽しそうに活動し、あっという間に操作に慣れていった。

オンライン授業の初日は、休校の不安を払拭するくらい、つながる喜びを十分に味わえた。そしてただ楽しいだけでなく、これから先の授業へとつながる活動になった。



オンラインのレク

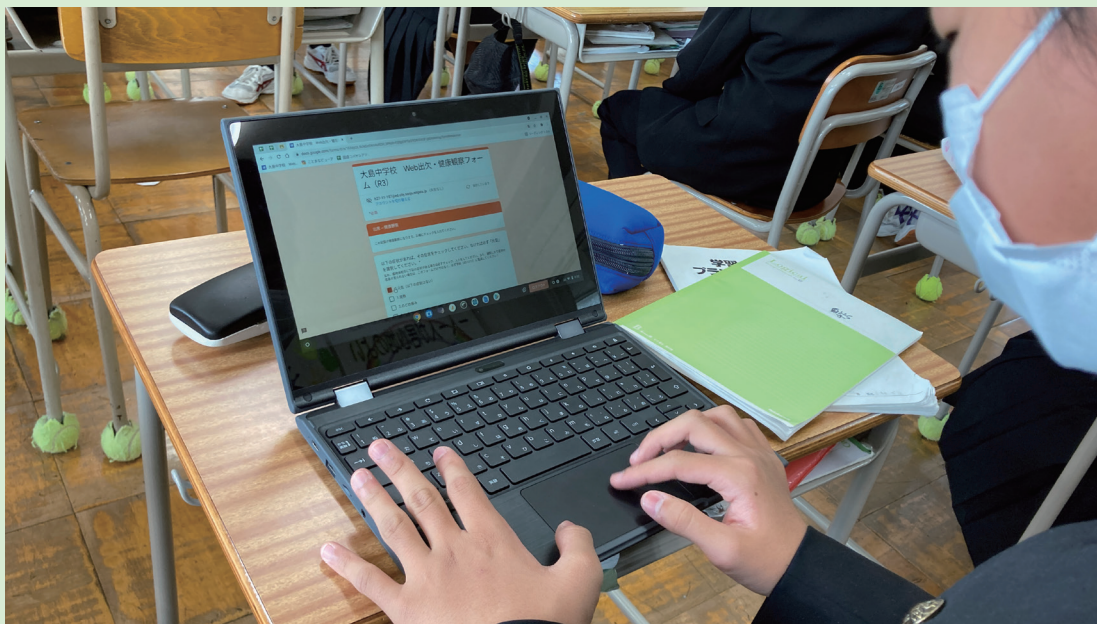


みんなでやれば怖くない

急に自宅からオンライン授業に参加することは、心理的にも ICT の操作的にもとてつもなく高いハードルがある。うまく接続できずに参加できない児童がいると、教師にとっても子どもにとってもさらに不安になり、続けていけなくなることもある。まずは教室でみんなで練習すれば、隣に友だちがいて、教えあったり、失敗し合ったりすることを通して、どのようにすればよいかがわかるようになり、不安はなくなっていく。（佐藤和紀）

Google フォームを活用した検温・健康観察

健康観察・出欠連絡の劇的な効率化



登校した生徒は毎日の検温・健康観察の入力，欠席する生徒には保護者が家から連絡できる Google フォームを設置したところ，毎朝の電話対応業務が激減，生徒の健康状態の把握も楽になり，「働き方改革」につながった。

(山崎寛山)

朝は健康観察からスタート

生徒は登校して8時になると、保管庫から自分の端末を取り出し、ブックマークしている健康観察のフォームにアクセス。1分もしないで送信終了。引き出しに片付ける。これが毎朝の日課となってきた。

生徒がその日の体温、健康状態を選択し、測ってきた体温を「度」と「分」に分けてプルダウンで選択できるようにした。また、後で結果をGoogle スプレッドシートで見るときに、37度以上は色を付けるなどの条件書式を活用することで視覚化。後で集計したり、並べ替えたりする

際にデータを扱いやすい方法を考えて設計した。

出欠・健康観察のフォームは、生徒に選択しやすく、後からの集計もしやすいよう設計した

出欠連絡と健康観察を1つのフォームで

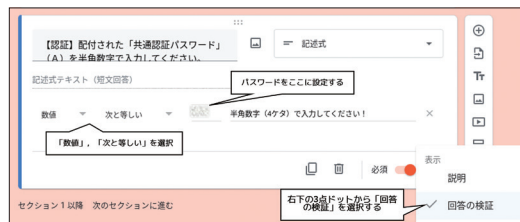
学校や自治体で、欠席や遅刻の連絡を電話に代えて、フォームを使う許可を得ていれば、健康観察フォームと一緒に運用すると、全生徒の出欠確認と健康観察の一覧ができる。本校では学校のホームページにリンクを貼って、アクセスできるようにした。また、不正利用を防



デジタル化することのメリット

これまでアナログで行っていたことをデジタル化することのメリットは大きい。デジタル化することで、データの蓄積や共有が容易になる。また、集計をする手間が省けるため教員の働き方改革につなげられる効果が期待できる。生徒や保護者は日常的にアンケートフォームで回答することに慣れているので、仕組みが整えば導入しやすい事例である。セキュリティを確保するためのパスワード設定のアイデアは参考にしたい。(三井一希)

止するため、予め生徒や保護者に学校独自の共通パスワードを知らせておき、簡単な認証をしてから入力してもらう。



不正利用防止のため、パスワード認証を設定

データを共有し、健康状態を瞬時に把握

各学年職員は、教室に行く前にスプレッドシートで入力された情報を見る。職員間で共有設定をしておけば、自分の端末から閲覧したり、関係するデータ（自クラスの情報など）を抽出したりすることも簡単にできる。

フォームからスプレッドシートに集計され、健康状態が一覧できる

教職員の「働き方改革」にも貢献

このフォームを活用することで、次のような作業の効率化が図られた。

- ・毎朝学活の健康観察の省略
- ・毎朝の検温シートの担任チェックの削減
- ・欠席や遅刻等の電話連絡対応時間の短縮
- ・全生徒の健康状態を把握する時間の短縮

保護者との連携

家庭ルールを決めて、
アップデートしてもらおう

充電場所を教えてください。自分の部屋よりも多くの人が確認できる場所にしましょう。

リビング (おすすめ)

その他: _____

使用時間を決めましょう。(月曜日) *

18時まで

19時まで

Template
▶p134

家庭との連携がうまくいかなければ、Chromebook の持ち帰りは成功しないと思った。持ち帰りを始めて最初の週末は、家庭ルールを決めて Google フォームで送信することにした。(浅井公太)

学校のルール+家庭のルール

Chromebook を持ち帰ったときに、基盤となるのが自治体や学校のルールだと思う。その上で家庭ルールも大切になる。例えば、私の学級では、Chromebook の使用時間を「21 時まで」にすることにしている。しかし、下校後習い事に行き帰りが 20 時になる児童と、下校後習い事がなく 16 時から自由に過ごせる児童とでは、「21 時まで」の捉え方が大きく違う。また、同じ児童でも、「月曜日は習い事で忙しいが、火曜日は習い事がなく余裕がある」というように、曜日によっても「21 時まで」の捉え方は大きく違ってくる。そういったことを考慮して、やはり家庭ルールが大切であると考えた。

私の学級では、持ち帰りを始めて最初の週末に、「保護者の方に Chromebook を触ってもらうこと」「保護者の方と家庭ルールを話し合ってくることを宿題にした。家庭ルールについては、Google フォームを使って回収し、家庭と担任で共有できるようにした。

保護者の方と約束（オリジナルの家庭ルール）を決めましょう。何個ルールがあってもいいです。（例 休日の使用は 1 時間まで）*

回答を入力

フォームを使った家庭ルールのアンケート

実際に、私の学級の家庭では、「使用は 1 時間以内。パソコンは、宿題等やるべきことをやった後に使う」「使用時間は、1 日合計 2 時間まで。充電は、毎日夜のうちにする。使わないときは、バックに入れておく。親の目の届くところでや

る」「パソコンはリビングで使用する」などの家庭ルールが決められた。

回収した家庭ルールを一覧にして見直した時、使用時間について家庭によって差があることを改めて感じた。次の学級懇談会では、使用時間について話し合う場を設け、様々な家庭ルールを共有し、それぞれのご家庭に合わせてアップデートしてもらおうと思った。

また、持ち帰った際、「充電場所」がポイントになる。おすすめの充電場所は保護者の目が行き届くところとするようにした。充電する場所を子ども部屋にした場合、保護者の目が行き届きづらい。そのため、フォームの中に充電場所を尋ねる質問も入れた。

充電場所を教えてください。自分の部屋よりも多くの方が確認できる場所にしましょう。

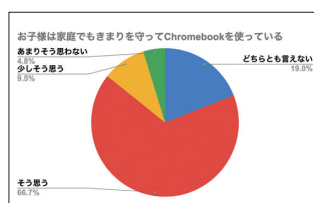
リビング（おすすめ）

その他: _____

充電場所についてのアンケート結果

2 週間後に確認を

Chromebook を持ち帰らせてから 2 週間後に行ったアンケートでは、「家庭でもきまりを守っ



「家庭でもきまりを守って使っている」かのアンケート結果

て使っている」という質問で、「そう思う・少しそう思う」と答えたご家庭の割合は、76.2%であった。

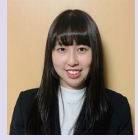


ルール決めはまず「型」を提示

この取組みの良さは、まず保護者の皆様に型を提示し、まずは型に従ってルールを考えていただいた後に、さらに状況に応じてアップデートしていく、というプロセスを踏んでいるところだ。最初から「さあ、作ってください！ お願いします」だと、何をしたらいいかわからなくなるし、ある程度型がないと学級としての前提や土台がつかられないため、共通の議論がしにくい状況が生まれ、その後の議論にも影響していくことになる。（佐藤和紀）

南小での校内連携

南小学校では、前年度私が先行して実施させていただいたこともあり、研修も早めに計画することができました。子どもに教えると同時に職員間で教え合うことも、とても大切な時間となります。疑問や聞きたいことをすぐに質問し合える雰囲気は南小の職員室にはあります。教室の子どもたちと同様に先生方も様々なことにチャレンジしているところです！（西久保真弥）



* Google Classroom の職員用クラス



私が動めている南小学校では、職員用のクラスを作成し、ここで様々な情報を共有しています。

子どもに見てほしい動画、授業で使えるリンクなどを Google Classroom に提示することで、全職員が教室内でもすぐに活用することができます。

研究授業を通して、子どもたちが Chromebook を活用している場面を実際に参観してもらった機会もありました。「どのような場面で使っているのか」「子どもたちがどのように活用しているのか」実際に見てもらうことで、イメージをもってもらうことができたように感じました。参観してくださった先生方からは「子どもたちがこんなにも使えるようになっているとは思わず、驚いた」「自分たちが活用するときのイメージが湧いた」などの感想をいただきました。



* 活用場面を参観してもらう

子どもたちの活用の様子から学ぶ

GIGA スクール構想によって実現した普通教室での授業における 1人1台の Chromebook の活用の仕方は、これまでのコンピュータ室での 1人1台のコンピュータの活用の仕方とは異なる。活用の機会が増えることによって、子どもたちは操作に慣れ、先生から指示されたときはもちろん、指示がなくても、必要なときに自分たちでツールを選んで活用するようになる。いわゆる「文房具」としての活用だが、そうは言ってもなかなかイメージがわからないこともあるだろう。やはり、子どもたちが活用している様子を見てもらうのが一番である。

南小では、昨年度、先行して実践してもらった西久保先生の授業をほかの先生方が参観する機会があった。校内の研究テーマの検証授業だったが、いつもどおりに子どもたちは Chromebook を活用し

ていたので、その様子も見ていただくことができた。隣のクラスで、もともと ICT 活用にお詳しい先生の授業を参観してもらったとしても、「原先生だからできる」と思われたらどうだろう。しかし、ICT 活用が決して得意ではない西久保先生の学級の子どもたちが使いこなしているのを見て、ほかの先生方が「自分でもできるかも」と思ったと聞いた。

教師も自分で活用しながら学ぶ

これまで南小の先生方は、別の OS やアプリを利用していたので、Google Workspace for Education のアプリを使ったことがない方がほとんどだった。そんな先生方は、授業での子どもたちの活用の様子を見て、「できるかも」と思ったとしても、実際の操作まではわからない。「習うより慣れよ」で、自分たちでも活用してもらうのが一番である。

まずは、Classroom による情報共有。授業での活



夏休みには研修として Chromebook の活用方法を全体で体験する時間も設けてもらいました。Google フォームの使い方を確認し、近くの先生と教え合いながら実際に職員用のクラスに提示します。提示された課題を解く時間も取り、子どもたちの様子も見てもらおうようにしました。



研修で体験してもらったことで、もっと活用してみようという雰囲気が出てきました。放課後や空いている時間などに、どのような活用方法があるか教師間で教え合うなど、困ったときにはすぐに助け合えるような環境になっています。

積極的に活用していきくと、その都度課題も出てきますが、活用している分、職員全体で解決できるので、自分1人だけ先行して実践させてもらった昨年度よりさらに心強い環境で活用ができています。

用はここから始まるといっても過言ではない。職員用の Classroom を準備し、そこで情報共有を行うことで、操作に慣れてもらうことと、活用する良さを感じてもらおうことの2つのプラス面があったと思われる。

次に、Google フォームの活用体験。先生方は、フォームに答えたことはあると思うが、アンケートやテストは作ったことはないかもしれない。作ってみると、意外と簡単にできる。それを実感することができるので、アンケートやテストを作る機会を意図的に設定するというのはよいことだと思う。

学年・学級・学校の枠を超えて

今年度、西久保学級以外での活用も始まり、先生方間で活用の仕方や活用する上で困ったことなどが共有されるようになってきている。体験を通して活用してみようという雰囲気が出てきたり、日常的な情



南小ではクラス単位で Chromebook の活用をするのではなく、学年を超えて活用を進めるようにしています。例えば使い始めであるアカウントの作成やパスワードの入力などを、Chromebook が少しでも使える先生が空いている時間に他教室に入って子どもたちに教えたり、Chromebook に慣れた6年生が1年生のお手伝いをしたりしました。

このように学級や学年の垣根を越えて、うまくいったことを共有したり、不安なことを協力して乗り越えたりしながら、Chromebook の活用を進めているところです。

報交換や教え合い・助け合いが行われたりしているのが素晴らしい。

そのような先生方なので、西久保学級で行われているような教え合いが、学級・学年の枠を超えて行われるようになってきている。半年の先行的な活用で余裕をもって取組みを進めている西久保先生と、ICT 活用にお詳しい原先生に指導を受けた6年生が、今後の南小全体の活用をリードしていこう。

なお、昨年度も一緒に組んでいたこの先生たちが送り出した卒業生は、現在、中学1年生。2つの小学校が1つの中学校に進学している。中学校も1人1台情報端末環境になって活用が始まったとき、出身小学校でキーボード入力などの操作スキルに大きな差があったという。ただし、子どもたちは慣れるのは速く、また、卒業しても「教え合い」を続けているとのことで、半年経った今では、出身小学校の差はなく活用できているそうである。(渡邊光浩)